

3. 2021 年度活動方針

1) ビジョンに基づき組織づくりを進めよう

今期は、ビジョンに示されたミッションの見直しと行動計画、短期目標をつくり、それに基づいてふさわしい組織のあり方を明確にして、組織基盤を強化します。

1-1) ミッションの見直し、中期計画と短期目標の作成

河北潟ビジョンに示されたミッション一覧の見直しのための作業部会を設定し、ミッションを現状に即して整理し、それに基づく行動計画と短期目標を策定します（担当：理事長）。

1-2) 財源の確保

引き続き寄付推進本部長を事務局次長として、6月中旬に推進会議を開催します。メンバーは本部長が選定して依頼することとします。寄付形態ごとの目標と集める方法について明確化します。次回の理事会において成果を報告できるようにスケジュールを作成します。

1-3) 仲間を増やそう

引き続き会員拡大本部長を筆頭副理事長として、6月中旬に推進会議を開催します。メンバーは本部長が選定して依頼することとします。次回理事会において計画を報告できるようにスケジュールを作成します。入会案内のパンフレットをつくります。

2) 研究活動を進めよう

河北潟ビジョンに基づき再汽水化に関する基礎調査や水田の生物について市民参加型の調査活動、機関誌紙の発行を進めることを目指します。

2-1) ビジョンプロジェクト

ビジョンプロジェクト会議（座長：所長）によりビジョンの見直しを進めます。また必要な調査計画や資金獲得のための計画を策定します。

再汽水化プロジェクト、流域保全プロジェクト、地域循環共生圏プロジェクトについては、それぞれの担当者ごとにプロジェクトチームを再編して活動を軌道に乗せます。

2-2) 市民参加型調査

コロナ禍の影響もあり大学が十分に機能していないこともあり、大学生の受け皿としてインターンシッププログラムの充実を図り、水田の市民参加型調査を実施します。

zoom セミナーを企画します。流域のゴミ調査を進めます。

2-3) 機関誌紙

総合研究は編集委員会を開催します(座長:河北潟総合研究編集長)。『かほくがた』は、ボランティアを入れた編集会議を開催します(座長:かほくがた編集委員長)。早急に総合研究 24 巻を発刊し、25 巻発行の目処を立てます。『かほくがた』26-2~4 を早急に発行します。

3) 地域連携を進めよう

流域連携の仕組みを進め、流域協議会の発足を目指します。

3-1) 河北潟自然再生協議会への働きかけ

河北潟自然再生協議会総会において、法定協議会化と流域協議会への拡大を提案できるように働きかけます。年度内に法定協議会への筋道をつけます。

3-2) 流域連携の推進のための部会

連携の課題について取り組む部会、流域の産業を生み出すプログラムを検討する部会の2つの部会により、連携の課題、共通目標の設定、連携による地域活性化の展望を検討していきます。

3-3) ラムサール条約登録に向けた連携

日本野鳥の会石川、森の都愛鳥会との連携を続け、干拓土地改良区にも働きかけ、合同の野鳥観察会を開催します。河北潟のラムサール登録への気運をつくっていきます。

4) 河北潟の環境保全の環を拡げよう

河北潟の環境保全に取り組む人の環を拡げるための活動として、観察会やシンポジウム、田んぼの活動を進めます。

4-1) 観察会・シンポジウム

地球環境基金、エフピコ、ゆうちょ・フィランソロピーなどの外部資金を活用して、例年規模の活動を実施します。特にエフピコの活動として流域の漂流ゴミに関する活動を実施します。

4-2) 七豊米

生産と生物多様性の保全の両立のため、さらに市民参加を進めます。

5) 自主事業の推進のために

常勤・非常勤スタッフを中心に、他の会員の協力のもと収益性の確保を進めます。

5-1) 生きもの元気米・その他の生きもの元気農産物（加工品を含む）

採算性からは 20%～50%取扱量を増やす必要があり、新たな契約農家の獲得と無農薬ほ場の契約を目指します。また、米から他の商品にシフトすることで採算性が上がることが予想されることから、新たな商品開発を進めます。米の新しい認証制度について試行します。

5-2) すずめ野菜

マルシェと結びつくことですずめ野菜の取り組みへの理解が広がるので、生産と販売を結びつけて地域循環型の活動モデルとなるように引き続き活動を実施します。生産への一般参加を拡大する方向で取り組みます。

5-3) 金曜マルシェ

当研究所と市民の結びつく場として機能していることから、継続して事業を行いますが、採算性が悪いことから一度、事業の継続について検討します。継続できるようにマルシェ向けの商品開発を本気で行い、販売品目を増やす方向で取り組みます。

5-4) ネットショップ

「カホクガタ」のホームページからの誘導が悪いなど、販売のための打ち出しが弱いことが、販売が伸びない要因として考えられることから、ショップの打ち出しを大胆に行います。

合理的な運営ができていないことなど、採算性の点からの見直しを進めます。

取り扱い商品を増やし、店舗当たりの売上を増やし、採算性を確保します。

5-5) 市民科学出版、その他出版事業

2冊程度の自費出版の受注を目指します。独自出版について企画化します。

6) 受託事業

現在の受注を続けることと、ホームページの作成管理などノウハウのある分野での受注を目指します。

7) 助成金事業

助成金としては地球環境基金、エフピコ環境基金の活動を実施します。活動内容（用途）が指定された寄付金として、ゆうちょコミュニケーション・フィランソロピー協会寄付プ

プログラムを進めます。

7-1) 地球環境基金

継続事業2年目の活動として流域連携を進めるプログラムを実施します。

7-2) エフピコ環境基金

流域の漂流ゴミの実態調査とゴミを減らすための啓発活動を実施します。

7-3) ゆうちよ エコ・コミュニケーション

田んぼのミニビオトープづくり、七豊米の米づくり、すずめ野菜、zoom セミナー・生きものカードの作成をおこないます。

8) 定款細則の改訂と友の会・研究会の整理について

現在の定款細則に示されている河北潟湖沼研究所の内に設置される諸機関について、定款の定めは現状を反映しておらず、見直しを進めます。検討事項としては、会費、会員種別、友の会、研究会、事業部等のあり方となっています。今総会までに改正案がまとまっていないので、今後の理事会において検討を進めます。

理事会内に組織体制検討委員会（仮）を設置し、理事会の採択により定款細則を変更の後、次回総会において報告します。